

研究授業指導支援案

学校名：城東中学校

授業の概要	
授業日時・学年・教科・単元名等	
授業日時：平成25年11月16日 4時間目 学年：2年 T.T 教科：保健体育 授業者 三木章吾、西脇 公孝 単元名：ハードル走 ICT支援員によるサポート ■ 授業中 ■ 事前	
単元・題材の目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力しながら自己の役割を果たし、自他の安全に配慮して積極的に活動する。 (関心・意欲・態度) ・自己の能力に適した課題に取り組み、その解決を目指して適切な練習方法を選択したり、工夫したりする。また、ICT機器を活用して自分や仲間の動きを分析し、活動の参考にしたり、仲間にアドバイスしたりすることができる。 (思考・判断) ・滑らかなハードリングやリズムカルな走りを身につけ、記録の向上を目指す。(技能) ・ハードル走の特性、技術の名称や行い方、関連して高まる体力について理解する。 (知識・理解) 	
単元全体の流れ	
1時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 単元のねらい、学習の流れの確認 ・50m走、50mHの記録測定 ・グループ編成
2～4時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用のしかた ・ハードリングのポイントの確認 ・ハードルを用いた準備体操 ・ハードルの練習方法 (リズム練習・振り上げ練習・抜き足練習・前傾姿勢練習・インターバル)
5～7時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の課題に応じた練習 ・フォームの分析→課題発見 ・記録測定
8時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・記録会 ・まとめ
本時の中心となる授業形態	
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習	
本時の目標（評価の観点）	
<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題に応じた練習に積極的に取り組むとともに、アドバイスし合ったり励まし合ったりしながら練習できるようにする。 (関心・意欲・態度)(思考・判断) ・自分や仲間のハードリングを観察・分析し合い、練習や記録向上に生かすことができるようにする。 (思考・判断) ・滑らかなハードリングやリズムカルな走りができるようになる。 (技能) 	
情報通信技術の活用	
活用した場面	
<input type="checkbox"/> 導入 <input type="checkbox"/> 展開 <input type="checkbox"/> まとめ <input checked="" type="checkbox"/> その他（すべての場面で）	
活用した者	
<input checked="" type="checkbox"/> 教員 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒	

<協働学習の実施状況>

- 生徒が相互に教え合う場面があった □ 数名が一緒に学び合う場面があった
■ 数名が協力したり助け合ったりする場面があった □ 数名が話し合う場面があった
□ 一人が発表したことについて学級全体で考える場面があった
□ 同じ問題について、学級全体で話し合う場面があった
□ ネットワークを使って遠隔地と結んで学ぶ場面があった

2. 情報通信技術の活用のねらいと効果

(1) 活用のねらい

ハードリングのイメージをつかませるために、タブレット PC (iPad) を用いて、模範的な動きと自分たちの動きの動画を比較させ、グループで自分や仲間の動きを分析する。特に振り上げ脚に焦点をあて、教具を上手に蹴れている人の良かった点や、その人の感覚をグループで共有し、以後の練習に生かせるようにする。

(2) 活用により期待される効果

- ・ハードリングフォームのイメージが、より具体的につかめる。
- ・模範的な動きと自分の動きを比較できるので、課題を発見しやすい。
- ・グループで動画を分析することにより、学び合いがより効果的で具体的なものになる。

(3) 実践上の課題

特になし。